

平成二十四年(二〇二二年)一月九日 信仰心

神から人へ、人から神へ。

人の最も大切なるは、心底からの帰依きえと献身けんしん。

人の力を超えしもの、人の力の及ばぬものに、謙虚けんこに従い、委ねる心ゆた。

さなる心の衰おとろえて、失われゆくを憂うれうるばかり。

人の人たる所以ゆえんとは、見えぬものにも頭こゝろを垂たれて、己の欠けたる能力、知力を、素直に認める心なり。
なれば今の世、人の世界は、見えるものしか信じず、認めず。

科学の力や技術を過信し、人の力で作れぬものを、次から次へと壊こわし滅ほろぼす。

信仰心の欠けたるものは、獣けだものよりも猛たげ々しく、及ぼす害は甚はなはだし。

信仰心は、至高しこうの心。至誠しせい至純しじゆんの心なり。己の役と分ぶを弁わきまえ、その遂行すいこうに心こゝろを砕くだく。

望みや願ねがいは理かなに適あい、天の道へと通じゆく。

さなる心を養やしなえよ。祈りの日々にて育はぐまれむ。

日々の短き祈りにて、蒔まかれし種たねは育そだちゆかむ。

一人ひとりの命の重さは、掛けがえもなき尊とうときもの。

一つの命も輝かがやけよ。神の光に照あらされよ。

祈りのことはを湛たえる心に、神の光は溢あふれゆかむ。

祝いわえよ、謳うたえよ、感謝と喜び。言葉の波動は光を増まさむ。

神の創つくりし自然万物、祝福されざるものはなし。

神の祈りと調和せば、自おのずと心は喜よろこび満みてり。

讃えよ、唱えよ、神のみ名。人の心の根源に、つながる絆を確かめよ。
ほどけて離れる御魂の糸を、祈りの言葉で結び合わせよ。

求める心に、天は応えむ。示して明かさむ、宇宙の則を。

人は素直に従うのみ。逆らう生に、実り少なし。

心の浄化と成長により、肉体次元を超えしとき、高き御魂の世は顕われむ。

日々の祈りを重ねてゆけよ。心の糧なる祈りの声に、心も自ずと従わむ。

祈りあらば、日々穏やかなり。平らかなり。安らかなり。

祈りのことばを御魂に聞かせよ。御魂は喜び、波動を高めむ。

辛き時、苦しき時、悲しき時、迷いし時、光失いし御魂に聞かせよ。

ことばは神の光なり。己の祈りは神の声なり。

神の祈りを、御魂に聞かせ、御魂の光を取り戻せよ。

神の慈愛は掌中にあり。伸ばさずとも、求めずとも、既に己に届けられたり。

信仰心は極まりて、神の願いと調和せむ。

神の願いを言霊にせよ。神の祈りと相和せよ。

人の幸は、神と共にあること。神と共にあるを常に感知し、悟ること。

人は願えよ、真の幸い、真の栄光、真の信仰。

浄土は己の心に在り。そこに気づくのも信仰ならむ。

遠くに見ゆるは幻にて、徒勞の旅を続けるなかれ。

心の浄土の標となるは、祈りの他にあらざらむ。

己の祈りに導かれ、心の浄土に辿り着かれよ。さにて、